

## 「XをYに…する」構文における非義務的コントロール

武藤 佑輔

(上智大学言語科学研究科言語学専攻)

日本語には、「地図をたよりに」に代表される、「XをYに」の形式を取る付加詞が存在する(村木 1983)。この付加詞のうち特定のものに関して、「Y」に相当する語の所有者が主節主語によって義務的コントロールを受けることが指摘されている(Dubinsky and Hamano 2010, 西垣内 2019)。

(1) ケン<sub>i</sub>はキセルを $\phi_i$ 口に立ち上がった。 (Dubinsky and Hamano 2010:183)

本研究では、ここで観察されるコントロールが実際には非義務的コントロールであることと、それを踏まえ、NOC PRO は(little) pro と同一視できる可能性を提案する。

「Y」の所有者は主節主語からコントロールを受ける、という先行研究の観察に反して、主節目的語が Controller となる例が存在する。また、一部の話者は、(3)のような文において、主節主語と目的語のいずれも Controller として許容しうる。

(2) ケロシンを $\phi_i$ 燃料に、ロケット<sub>i</sub>を打ち上げた。 (羅 2020:106)

(3) キビダンゴを $\phi_{i/?j}$ 腰に、おばあさん<sub>i</sub>が桃太郎<sub>j</sub>を送り出した。

これは、Controller の位置が一つに定まる義務的コントロールとは異なる性質である。また、これらの事実は、非義務的コントロールは (i) 主節主語や、(ii) [+human] の要素が Controller となる強い(が、義務的ではない)指向性を示す、という Landau (2021) の観察に一致する。

加えて、この付加詞に係るコントロールは、その統辞的位置が特徴的である。PRO Theorem (Chomsky 1981) 以来、コントロールを受ける位置(あるいは、PRO の分布)は不定節の主語位置であるとされてきたが、この付加詞に関しては、NP, Spec がその対象となっていると思われる。これは、明示的な名詞句がノ格を伴って現れうる位置である。

(4) ケンはキセルを自分の口に立ち上がった。

したがって、この位置に生起する空範疇も、ノ格の付与を受けうるものと考えられる。

NOC PRO と(little) pro を同一視するにあたっては、PRO は格付与を受けないとされていること、また、NOC PRO は[+human]である、という指定が重要な課題であったと考えられる。本研究で提案する通り、非義務的コントロールは格付与を受けられる位置に対しても適用され、また、[+human]の指定は義務的なものでないとすると、少なくとも日本語において、NOC PRO を廃することがより現実的になるものと思われる。